

# Contribution to Society

- for Indonesia -



# インドネシア共和国への支援活動の経緯

年月日	できごと
2008年2月	愛媛大学インドネシア人留学生のディア ユメイナさんをインターンシップ受け入れ
2008年12月	横田代表取締役社長(当時)がインドネシアで支援活動に関する協定書へ署名
2009年2-4月	二神部長(当時)が現地トヨタディーラーハジカラトヨタにて技術指導を行う
2009年9月	ネットヨタ南国を通して救急車2台・消防車1台を南スラウェシ州バンタエン県へ寄贈
2009年11月	三瓶スラウェシセンターを通して救急車2台を南スラウェシ州バンタエン県へ寄贈
2010年12月	<b>第1回</b> : 救急車2台・消防車2台を南スラウェシ州政府へ寄贈
2011年10月	<b>第2回</b> : 救急車2台・はしご車1台を南スラウェシ州バンタエン県へ寄贈
2011年12月	バンタエン県の寄贈式典へ出席し、竹本副社長(当時)に「県民栄誉賞」が授与される
2012年6月	<b>第3回</b> : 救急車2台を南スラウェシ州クダリ県へ寄贈
2012年9月	<b>第4回</b> : 救急車3台・消防車1台・積載車1台を南スラウェシ州バンタエン県・ハジカラトヨタへ寄贈
2012年6-11月	上田スタッフがハジカラトヨタにて技術指導を行う
2012年12月	愛媛インドネシア友好協会・日本さくら交流協会を通して、南スラウェシ州バンタエン県・バリ州カラングスム県に桜の苗を300本ずつ寄贈
2013年2月	<b>第5回</b> : 塵芥車2台を南スラウェシ州バンタエン県へ寄贈
2013年5月	南スラウェシ州リンポ知事が来社。第6回寄贈に関する調印式と寄贈式に参加される 愛媛県庁へ表敬訪問を行う
2013年5月	<b>第6回</b> : 救急車5台・消防車11台・はしご車1台を南スラウェシ州政府へ寄贈 愛媛インドネシア友好協会から消防車5台を併せて寄贈
2013年4-7月	ハジカラトヨタからエンジニア2名を受け入れし、技術研修を行う
2014年4月	<b>第7回</b> : 救急車2台・消防車1台・はしご車1台・乗用車2台を南スラウェシ州バンタエン県へ寄贈
2015年1月	<b>第8回</b> : 救急車1台・消防車9台・バス1台を南スラウェシ州バンタエン県・ピンラン県へ寄贈
2015年5月	インドネシアより7県の知事御一行が来社。第9回寄贈に関する調印式・贈呈式に参加される 愛媛県庁へ表敬訪問を行う
2015年8-10月	ハジカラグループよりエンジニア2名・営業1名の研修を受け入れ
2016年1月	JICA草の根技術協力「インドネシア共和国南スラウェシ州バンタエン県における自動車整備士養成プロジェクト」が採択される
2016年6月	<b>第9回</b> : 救急車11台・消防車39台・はしご車1台・塵芥車2台をインドネシアの7県へ寄贈 寄贈先: エンレカン(Enrekang)・グスンソトリ(Gunung Sitoli)・ジェネポント(Jeneponto)・パロポ(Palopo) パランカラヤ(Palangkaraya)・バンタエン(Bantaeng)・ピンラン(Pinrang)
2016年7月	南スラウェシ州バンタエン県の職業訓練校BLKバンタエンに自動車整備課が開講される JICA草の根事業が開始され、開講式と緊急車両の寄贈式が行われる 上田スタッフが自動車整備コースの講師として2年間派遣される
2016年12月	インドネシア労働省がJICA草の根プロジェクトMTGのため、愛媛トヨタへ来社
2017年3月	<b>第10回</b> : 救急車7台・消防車22台・タンクローリー1台をインドネシアの9県へ寄贈 寄贈先: バンタエン(Bantaeng)・ブルクンバ(Bulukumba)・ゴロンタロ(Gorontalo)・マムジュ(Mamuju) オガンコメリリル(Ogan Komering Ilir)・パンクプ(Pangkep)・中央トラジャ(Tanah Toraja) 北トラジャ(Toraja Utara)・ワジョ(Wajo) インドネシア内務省御一行が来社。第10回寄贈に関する調印式・寄贈式に参加される 内務省御一行が愛媛県庁を表敬訪問し、愛媛県副知事と面会された

# インドネシア共和国への支援活動の経緯

年月日	できごと		
2017年 6月	インドネシア共和国副大統領ユスマカラ氏(当時)と二神常務取締役が面会		
2017年 8月	在日インドネシア大使館にてアリフィン特命全権大使を二神常務取締役が表敬訪問		
2017年 9月	インドネシア内務省チャフヨ大臣(当時)を二神常務取締役が表敬訪問		
2017年11月	BLKバンタエンの自動車整備コースから選抜された4名が愛媛トヨタで1カ月間研修を行う インドネシア労働省局長が来社。4名の研修報告会に参加される		
2017年11月	インドネシア各自治体御一行(46名)が来社。第11回寄贈に関する調印式と寄贈式を行う 愛媛県庁を訪れ、愛媛県中村知事を表敬訪問する		
2017年12月	二神常務取締役がバンタエン県民栄誉賞を受賞		
2018年 5-7月	<b>第11回(第1便)</b> :救急車3台・消防車11台をインドネシアの10の県と市に寄贈 寄贈先:アンボン(Ambon)・バンタエン(Bantaeng)・ボゴール(Bogor)・グロボガン(Grobogan)・ソロン(Sorong) マクワリ(Manokwari)・ムランギン(Merangin)・プシシルスラタン(Pesisir Selatan)・トゥバン(Tuban) ワカトビ(Wakatobi)		
2018年 7月	JICA草の根技術協力「インドネシア共和国南スラウェシ州バンタエン県における自動車整備士 養成プロジェクト」が2年間過程を修了 BLKバンタエンにて卒業式が行われ、愛媛県上甲副知事(当時)・二神常務取締役が参加される		
2018年11月	<b>愛媛・インドネシア友好協会、日本さくら支援協会の協力のもと、桜の苗を300本寄贈。</b> 寄贈先:南スラウェシ州・ハサヌディン大学・ハジカラグループ		
2019年1月	愛媛トヨタのこれまでの活動がきっかけで、愛媛県知事 中村 時広氏とインドネシア共和国副大 統領ユスマカラ氏(当時)がジャカルタの副大統領官邸で二神常務取締役同席のもと面会。 今後の経済連携について意見交換を行った		
2019年2-3月	<b>第11回(第2便)</b> :救急車4台・消防車7台をインドネシアの6の県と市に寄贈 寄贈先:アンボン(Ambon)・プシシルスラタン(Pesisir Selatan)・ワカトビ(Wakatobi)・トゥバン(Tuban) トングアラ(Donggala)・ボゴール(Bogor)		
2019年3月	インドネシア共和国内務省よりこれまでの活動に対する感謝状が愛媛トヨタへ授与される		
2019年3月	JICA草の根技術協力事業「国立職業訓練校自動車整備科インストラクターの養成および評価・ 育成システム構築プロジェクト」(草の根パートナー型)が採択される		
2019年8月	JICA草の根技術協力事業「国立職業訓練校自動車整備科インストラクターの養成および評価・ 育成システム構築プロジェクト」(草の根パートナー型)が8月より3年間の予定で開始される		
2019年8月	インドネシア共和国副大統領ユスマカラ氏(当時)のお孫様5名をインターンシップ受入(2週間)		
2019年9-10月	<b>JICA事業派遣第1回</b> :愛媛トヨタ・ネッツ南国より計3名がBLKバンタエンにて技術指導を行う		
2019年11月	<b>第12回</b> :救急車11台・消防車27台を南スラウェシ州政府へ寄贈		
2020年1月	インドネシア共和国労働省大臣 イダ ファウジャ氏と二神常務取締役が面会		
2020年1-2月	<b>JICA事業派遣第2回</b> :愛媛トヨタ・愛媛トヨペット・高知トヨタから計3名がBLKバンタエンにて技術 指導を行う		
2020年4月-	新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大によりJICA事業が中断		
2020年12月-	<b>第13回</b> :救急車2台・消防車11台を南スラウェシ州政府へ寄贈		
		<b>販売店</b>	<b>寄贈台数</b>
		愛媛トヨタ自動車(株)	134台
		高知トヨタ自動車(株)	75台
		合計	<b>209台</b>

# 愛媛トヨタ

## 経営理念 愛媛トヨタ自動車株式会社

一つ、私たちは、私たちと家族の幸せを求め、人生の勝利者になるためここに集う。

(Employee Happiness)

一つ、私たちは、お客様とビジネスパートナーの幸せを願い、お役立ち活動を実践する。

(Customer Happiness)

一つ、私たちは優しさと思いやりをもって、広く社会へ貢献する。

(Corporate Social Happiness)

私たちにとって大切なこと、それは関わる全ての方々との喜びを分かち合うためです。

それには、唯一の正解もゴールもありません。

目まぐるしく過ぎていく日々の中で、一人ひとりの人間や目の前の出来事と真っすぐに向き合い、生きる。その在り方の礎となるものが、この経営理念の3項です。

## 社会貢献活動

### 交通安全

- ・交通安全取組講演
- ・SDカードによる安全啓蒙
- ・交通安全パレード

### 海外支援

- ・タイ北部への物資支援
- ・インドネシア支援活動
- ・中国への技術支援

### 教育支援

- ・「人の輪」参加
- ・インターンシップ生受入
- ・出前授業

### 情報提供

- ・フィロソフィー広告掲載
- ・振興会等への技術提供
- ・HP等での活動情報提供

### 地域社会とのふれあい

- ・松山まつり参加
- ・愛媛マラソン参加
- ・ナイスハート参加

### 災害復旧

- ・被災現場での復旧活動
- ・義援金募集活動
- ・被災地への物資支援

愛媛トヨタ  
マスコットキャラクター

**にゃんと**

【にゃんとプロフィール】

身長/80cm

体重/30kg

誕生日/4月4日(創立記念日)

好物/カレーライス

## 【会社概要】

設立 1940年1月

資本金 7,000万円

代表者 取締役社長 大城戸 圭一

本社 愛媛県松山市宮田町109-1

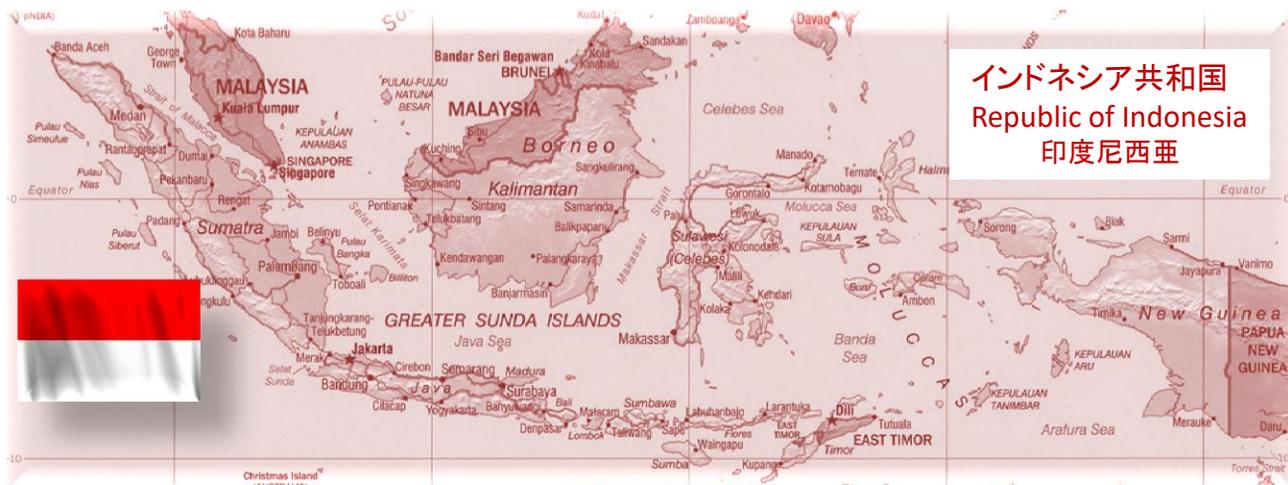
TEL 089-941-5171

FAX 089-946-3277

事務所 本店、松山久米窪田店、空港通店  
三島・川之江店、今治店、西条・新居浜店  
大洲店、宇和島店、T-UP店、テクノオペレーションセンター



# インドネシア共和国ってどんな国？



インドネシア共和国  
 Republic of Indonesia  
 印度尼西亚

## 面積・人口

- ・約192万km<sup>2</sup>
- ※日本の約5倍
- ・約2.55億人
- ※日本の約2倍

## 首都

- ・ジャカルタ  
 (人口:1,017万人)
- ※東京  
 (人口927.3万人)

## 言語・宗教

- ・インドネシア語
- ・イスラム教(約87%)
- キリスト教(約10%)
- その他(約3%)

## インドネシアとの縁



愛媛トヨタがインドネシアへの支援活動をするようになったきっかけは1人のインドネシア人留学生のインターンシップを受け入れたことでした。

彼女は研修中に愛媛トヨタがタイへ物資支援を行っていることを知り、母国へも支援をして欲しいと愛媛トヨタへ要望しました。その後、彼女の紹介で南スラウェシ州ヌルディン知事(※当時は南スラウェシ州バンタエン県知事)とお会いし、国境を越えた絆の始まりを迎えました。

国境を越えて。人材の育成とふれあいのために、できることを。愛媛トヨタは2002年度よりインターンシップを実施しており、外国人留学生の受け入れは2007年から、アジア地域ではタイ・ユースメイトSA(27歳)が日本人留学生と会い、今年には中国人の方をお迎えする予定です。人材育成支援、国際的な社会貢献、文化交流といったことにご協力させていただけるのは、私たちにとっても貴重な学びの機会。愛媛トヨタグループでは、緊急を要するインドネシアへの物資支援も引き続き取り組んでまいります。



# 中古緊急車両の寄贈事業

## ～地方自治体から愛媛トヨタ、そしてインドネシアへ～

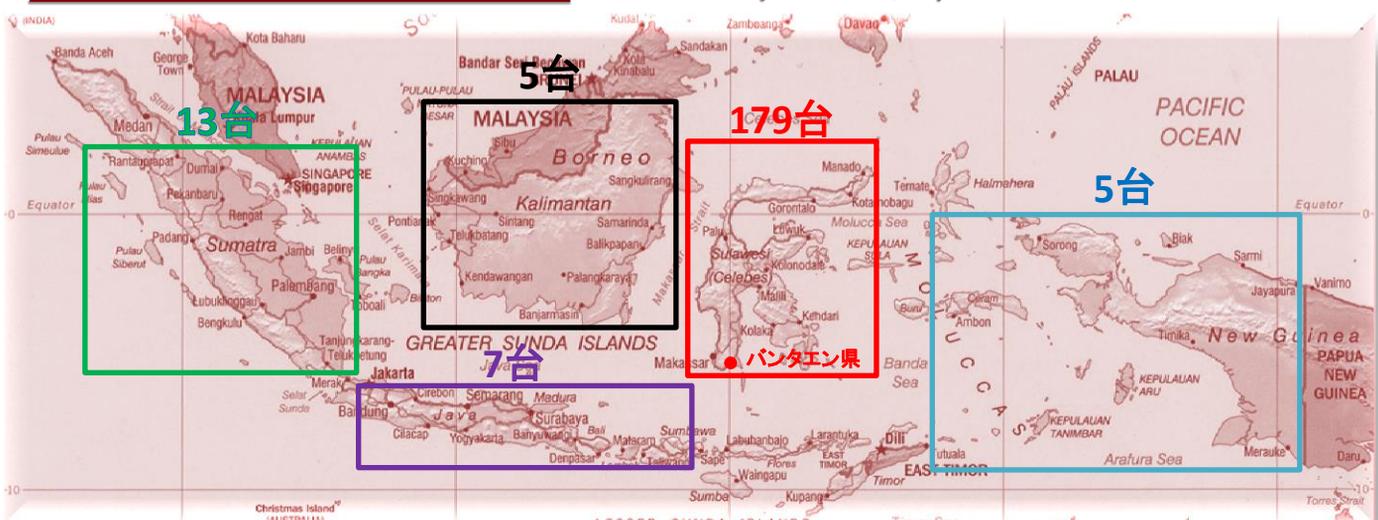
海外支援活動にご賛同いただいた地方自治体から、使用期限を迎えた緊急車両を譲り受け、インドネシアへ寄贈しています。日本で丁寧に使用され、しっかりと整備されてきた緊急車両はインドネシアでもまだまだ最前線で使用することができます。

インドネシアでは緊急車両が慢性的に不足しており、特に地方では救急車がなく患者をトラックで運んでいる地域もあります。日本で役目を終えた緊急車両たちはこれまで以上にインドネシアで活躍しています。



## ～これまで寄贈した地域～

合計209台(2020.11時点)



バンタエン県では寄贈車両を利用し、日本を見本として救急医療体制「119」を作成。それまで毎年10人以上の妊産婦が搬送中に亡くなっていたが、死亡率が激減。死亡者「0」となった年もあったとのことです。その功績はインドネシア全土でも認められ、バンタエン県がモデル都市として選ばれました。



# 現地トヨタディーラーとの技術交流



**KALLA TOYOTA**



ファティマ カラ 会長



ソリヒン ユスフ カラ 社長



イメルダ ユスフ カラ 副社長

インドネシアへの支援活動が続ける中で、南スラウェシ州にある現地トヨタディーラーと縁があり交流が始まりました。南スラウェシ州マカッサル市に本社を置くKALLA TOYOTA(カラトヨタ)は、当時副大統領であったユスフ・カラ氏のご姉弟であるファティマ・カラ氏が社長をしている会社です。

副大統領のご令嬢であるイメルダ・カラ氏(当時副社長)を含めたお話の中で、日本のサービス技術を学ばせて欲しいという要望がありました。そこで2009年に3か月間、2012年に6か月間の期間、愛媛トヨタからそれぞれスタッフ1名がカラトヨタへ赴き、現地スタッフに技術指導を行いました。カラトヨタからも2013年に2名、2015年に2名のエンジニアが愛媛トヨタを訪れ、それぞれ3か月間の技術研修を行いました。

その後も2015年と2019年にはユスフ・カラ元副大統領のご親族をインターンシップ生として受け入れるなど、交流は今でも続いています。

## 愛媛トヨタスタッフによる現地での技術指導



## カラトヨタからの研修生



## 副大統領のご親族をインターンシップ生として受け入れ



## **自動車整備士不足**

これまで多くの緊急車両を寄贈してきたインドネシア、特に南スラウェシ州ではインドネシアの中でも経済成長率が平均より高く、経済発展が進む地域の一つとして注目されています。併せてモータリゼーションが進み、同州における自動車の登録台数は増加する一方です。しかし、自動車整備士が不足している為、自動車メーカーの整備資格を持つ整備士を有し、修理・整備施設の整った自動車整備工場が非常に少ないという現状があります。残念ながら2014年には寄贈した車両の整備不良による自動車事故により、消防隊員が1名亡くなるという事故が起きています。

そこで、バンタエン県知事からの要請により、自動車整備士の育成を行うこととなりました。同県にある職業訓練校施設を使用し、自動車整備士インストラクターを育成する人財を作るプロジェクトをJICAの草の根技術協力事業として開始することとなりました。

## **プロジェクト概要**

### **提案自治体・実施団体**

愛媛県・愛媛トヨタ自動車株式会社

### **プロジェクト期間**

2016年1月から2018年6月まで（2年6カ月）

### **プロジェクト目標**

自動車整備学校が設置・運営される。  
自動車整備のインストラクターが育成される。

### **主な活動**

自動車整備に必要な資機材を設置する。  
2年間のカリキュラム・訓練を整備する。  
日本人専門家による実技・学科指導を行う。  
OJTとして車両整備の公共サービスを提供する。  
愛媛トヨタで国内研修を実施する。  
初級レベルの実技・学科の評価試験を実施する。  
指導能力・カリキュラム作成能力の試験を実施する。



# 草の根技術協力事業 愛媛から世界へ

愛媛の企業と JICA が協力して行う草の根事業をご紹介します。

## 愛媛トヨタ自動車株式会社

# インドネシアに自動車整備士を！

インドネシアの国立職業訓練校（南スラウェシ州バンタエン県）に「自動車整備科」を設立。  
3年間で自動車整備士を育成します。



**実施団体** 愛媛トヨタ自動車株式会社

**実施国** インドネシア共和国

**案件名** 南スラウェシ州バンタエン県における  
自動車整備士指導者養成プロジェクト



## プロジェクト背景

### 愛媛トヨタ自動車による緊急車両の寄贈

愛媛トヨタ自動車では、2009年から南スラウェシ州バンタエン県（インドネシア）へ、愛媛県内の自治体や消防団等から引き取った中古緊急車両（はしご車、消防車、救急車）を累計 60 台以上寄贈してきました。これにより通常有料だった救急車での搬送が無料となり、バンタエン県では年間約 9,700 名が救急車を利用できるようになりました。



### 整備技術指導

インドネシアでは自動車所有台数が年々増え続ける一方、整備士は少なく、整備用工具も不足しているため、自動車の整備不良による事故も少なからず起きています。愛媛トヨタ自動車は、緊急車両の寄贈だけでなく、現地のエンジニアと交流し、整備技術の指導も行ってきましたが、整備士を本格的に育成する必要性を感じ、今回のプロジェクトを実施することとなりました。

## 2016年、1月プロジェクト開始！

インドネシア国労働省とプロジェクト合意議事録に署名!!



整備士育成のための職業訓練校前で日・尼のプロジェクト関係者大集合!!



# JICA 草の根技術協力事業 自動車整備士養成者育成プロジェクト

## BLKバンタエン 自動車整備士育成コース開講

2016年7月にインドネシア南スラウェシ州バンタエン県にあるバンタエン職業訓練校(Balai Latihan Kerja Bantaeng)に自動車整備コースが開講されました。開講式には多くの南スラウエシ州の政府関係者らが参加され、愛媛県からも上甲副知事が現地へ訪れ参加いただきました。開講式の様子は現地の新聞やニュースでも報じられ、このプロジェクトへの期待と関心が高いことがうかがわれました。この日からインストラクター候補生、エンジニア候補生あわせて16名とのプロジェクトが開始しました。



インストラクター候補生



エンジニア候補生



# 専門科目の授業 インドネシア初の2年コース

インドネシアの職業訓練校は全国にあり、自動車整備コースもあります。しかし、そのすべてが3か月間のコースしかありません。プロジェクトが始まる際に、どんどん人材を送り出したいインドネシア労働省と、現場で本当に必要とされる人材を育成したい愛媛トヨタとのすれ違いがありました。最終的に愛媛トヨタの熱意と説得で2年コースが作られ、このプロジェクトが始まりました。

授業の内容はすべてインドネシア語で行われ、困難を極めました。しかし何より苦労したのが生徒達との信頼関係の作り方でした。日本との考え方や習慣の違いから初めはうまくいかない事も多くありましたが、上田スタッフの熱意が少しずつ生徒達と信頼関係を築いていきました。



## 専門科目試験(実技&筆記)

1学期で学んだ専門知識ですが、いざ学期末に行った試験では平均55点と私たちの理想と現実に大きなギャップがあることが分かりました。そこで学科や実技の教え方を改善し、2学期末には74.9点にまで改善されました。ソフトスキルの授業も引き続き行い、彼ら自身が向上心を以て授業に取り組むようになってきました。

LEMBAR PENILAIAN TEST PRAKTEK SELEKSI BALAI LATIHAN KERJA (BLK) BANTAENG		Nama Peserta																	
		Muh. Ikra	Syaiful Islam	Juwandi	Manggunjung Dg. L	Taufik Hidayat	Dodi	Alam	Almad	Uwah	Nini	Ika	Andira	Sapri	Ashari	Dadang Suhaida	Andika	Firman	
Pos	ITEM	Nilai Max	No. Urut																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	Penggunaan CD Repair Manual	100	57.5	92.5	80.0	100.0	80.0	65.0	72.5	72.5	93.5	72.5	80.0	80.0	100.0	100.0	0.0	65.0	85.0
2	Penggantian lampu besar	100	85.0	85.0	82.5	100.0	72.5	95.0	67.5	85.0	95.0	78.5	82.5	95.0	100.0	90.0	0.0	85.0	90.0
3	Pemeriksaan Komponen Mesin	100	95.0	95.0	65.0	90.0	60.0	80.0	50.0	60.0	90.0	90.0	90.0	85.0	95.0	70.0	0.0	90.0	85.0
4	Pemeriksaan Komponen Transaxle	100	70.0	80.0	60.0	70.0	70.0	70.0	70.0	60.0	65.0	80.0	70.0	70.0	90.0	75.0	0.0	85.0	95.0
5	Pemeriksaan Switch	100	85.0	100.0	85.0	80.0	60.0	70.0	70.0	65.0	80.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	85.0
6	Pemeriksaan K...	100	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
7	Pemeriksaan K...	100	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
8	Pemeriksaan Bat...	100	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
9	Pemeriksaan K...	100	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
10	Pemeriksaan Cam Shaft dan Cylinder Head	100	70.0	87.5	55.0	65.0	77.5	50.0	90.0	70.0	70.0	80.0	55.0	77.5	100.0	77.5	0.0	65.0	65.0
jumlah total		1000	770.0	895.0	717.5	825.0	760.0	750.0	700.0	757.5	833.5	741.0	762.5	852.5	937.5	822.5	0.0	822.5	832.5
jumlah total (%)		70%	53.9	62.7	50.2	57.8	53.2	52.5	49.0	53.0	58.3	51.9	53.4	59.7	65.6	57.6	0.0	57.6	58.3
Departemen uji		100	50.0	72.5	60.0	67.5	47.5	77.5	57.5	62.5	70.0	60.0	62.5	65.0	77.5	52.5	0.0	62.6	70.0
Departemen uji (%)		30%	15.0	21.8	18.0	20.3	14.3	23.3	17.3	18.8	21.0	18.0	18.8	19.5	23.3	15.8	0.0	18.8	21.0
jumlah total (%)		100%	68.9	84.4	68.2	78.0	67.5	75.8	66.3	71.8	79.3	69.9	72.1	79.2	88.9	73.3	0.0	76.3	79.3

1学期末 平均55点

2学期末 平均74.9点

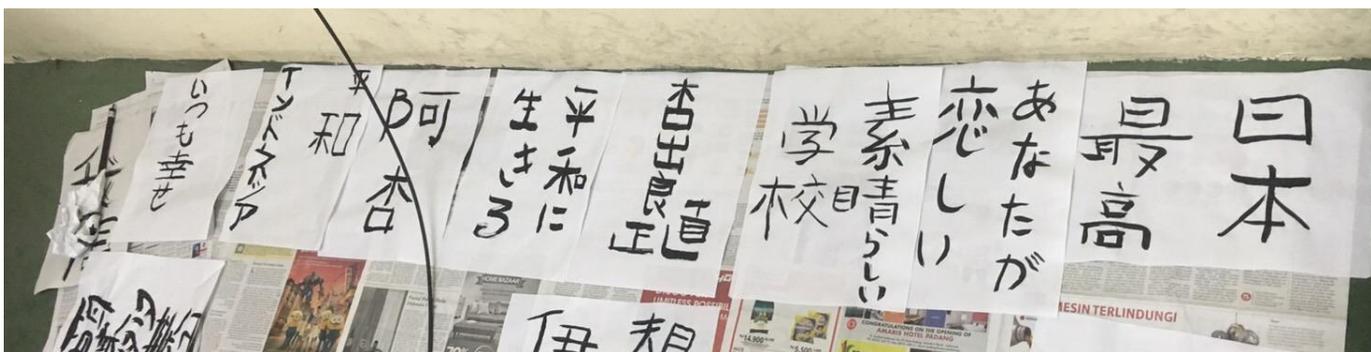
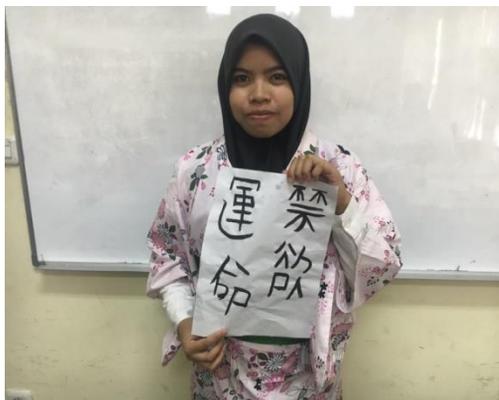
# アジアンスキル大会

プロジェクト期間中にはアジアンスキル大会がありました。アジアンスキル大会とは東南アジア圏で自動車整備のスキルと知識を競う大会です。社会人として既に働いている人に交じって出場したBLKバンタエンの生徒も南スラウェシ州予選へ出場しました。結果は3位入賞と優勝！しっかりとした技術が身につけてきたという自信になりました。



# 日本語研修

BLKバンタエンの自動車整備コースでは日本語の勉強も行いました。



# ソフトスキルの授業

プロジェクト成功の要として力を入れていたソフトスキルですが、インドネシアではそのような授業はありません。なので授業中にガムを噛む、携帯電話をいじる、イヤホンで音楽を聴きながら授業を受ける、ごみはどこでもポイ捨てなど、日本では考えられませんが彼らはそれが普通なのです。

卒業後、本当に必要とされる人材となる為、そしてプロジェクト終了後にも彼ら自身で自動車整備士を育成していけるように専門科目はもちろん、彼らのソフトスキルの教育にも力を入れていきました。

しかし、そもそも習慣や考え方がない彼らの意識を変えていくことは大変な試みでした。それでも彼らと多くの時間を過ごし、少しずつ築き上げてきた信頼を基にソフトスキルの定着を目指しました。

## プロジェクト成功の要

ソフトスキルの向上



問題に**気づく力**

## 日本人指導者がいなくなると…

× 維持・継続は困難

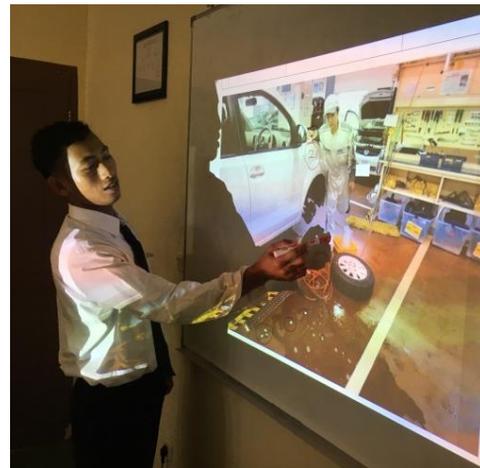
○ 継続しながら更に**改善可能**



4Sを徹底し、自分たちで掃除を行うようになりました



PDCA進捗が分かり易いように壁に掲示しました。



工場内の危険な箇所(問題)を発見し、全員で共有し、改善策を提案・実行するためのプレゼン。

# 地域貢献

ソフトスキルの一環で、BLKバンタエンの自動車整備課コースのスタッフと共に、地域の清掃を行いました。この活動についても1回だけでは意味がないので、継続して行えるように地域住民を巻き込んだ活動を行いました。



## 来日(愛媛トヨタ)研修

3学期では1・2学期で成績が良かった4名を選抜し、インドネシアから愛媛トヨタへ来日研修を行いました。4名の生徒は愛媛トヨタでの実技研修のほか、毎年行われている技術コンクールへも参加し、研修の成果を全社員へ披露しました。ほかにも愛媛県庁へ開講式へ参加いただいた上甲副知事を表敬訪問し、活動の成果を報告いたしました。彼らにとって日本へ来るという事は人生に1度あるかないかの経験であり、今後の人生の大きな糧になったことだと思います。



## カヲトヨタへのOJT

4名の生徒が来日研修を行っている間、残った12名の生徒達はカヲトヨタでOJT(企業内訓練)を行っていました。彼らは研修で学んだ専門知識と、ソフトスキルを駆使し、カヲトヨタの仕事のカイゼンを自ら進んで行うことが出来ました。生徒達のOJT期間中の働き方はカヲトヨタの責任者にも高く評価され、特に彼らの仕事以外での行動(ソフトスキル)は社員にも見習わせたいとお話がありました。



	カヲトヨタ社員	BLKバンタエン生徒
時間	出勤・朝礼に遅れてくる	1時間前に出社し工場の清掃
清掃	オイルが溢れてもそのまま	その都度清潔にする
安全	車の移動やリフト操作時にも声掛け等はなし サンダルでの作業	車の移動・リフト操作時には大きな声で安全確認 正しい格好で作業を行う
その他	お客様のタイヤに座って作業 タバコを吸いながら作業	自分の作業後は他の作業を手伝う。カイゼン活動を行う
カイゼン	お客様の部品入荷後の再予約が遅い	専用のボードを作成し、部品が届くとすぐ連絡できる仕組みを作った

自分たちで考え、周りに流されることなく  
正しい行動を行うことができた

## BLKバンタエン 卒業式

2016年7月～2018年6月の2年間の履修を終え、BLKバンタエンからインストラクター6名・エンジニア10名が無事に卒業できました。エンジニア10名は地元のトヨタディーラーであるカマトヨタでの就職が決まり、8月より1年間の試用期間を経て正式採用されました。インストラクター6名には2期生以降の生徒達の指導にあたり、地元の職業訓練校にてインストラクターとして後輩たちを指導しています。

卒業式にはヌルディン南スラウェシ州知事や、プロジェクトマネージャーである二神常務取締役から挨拶があり、愛媛トヨタからも8名のスタッフが参加する為に現地へ駆け付けました。

インドネシアの職業訓練校で初となるこの2年間コースの卒業生は、他校では学べないソフトスキルに力を入れており、今後の活躍がとても期待されています。



# JICA 草の根パートナー型 国立職業訓練校自動車整備課インストラクターの 養成および評価・育成システム構築プロジェクト



## プロジェクトのインドネシア国内への展開

先行プロジェクト(自動車整備士育成者養成プロジェクト)が終了した際に、インドネシア労働省との協議にてインドネシア国内の職業訓練校に展開するために、同じプロジェクトをそれぞれの職業訓練校で実施して欲しい、という要望がありました。そこで、全国の職業訓練校へそれぞれ日本人スタッフを2年間派遣することは現実的ではない為、これまでインストラクター6名を養成したBLKバンタエンへ対象となるインストラクターを集めて指導していくこととなりました。そこにはすでにトヨタの哲学である5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)とPDCAによるカイゼンが根付いており、それを体感しながら研修を行っていくことで質の高いインストラクターを養成することを目指しました。

## プロジェクト概要

### 実施団体

愛媛トヨタ自動車株式会社

### プロジェクト期間

2019年8月から2022年8月まで(3年1か月間)

### プロジェクト目標

2年間の自動車整備課コースを指導できる国立職業訓練校自動車整備科インストラクターが養成されるとともに、職業訓練校の組織の活性化に資するインストラクターの評価・育成システムが構築され、自動車産業界が求める自動車整備士を自立して育成できる

### 主な活動

- ・2年間の自動車整備科コースを修了した1期生インストラクターによる自動車整備科コース2期生の訓練実施のモニタリング・フォローアップを行う
- ・2年間の自動車整備科コースのカリキュラムの見直しとカイゼンを行う
- ・日本人専門家による実技訓練のサポートを行う
- ・愛媛トヨタで選抜インストラクターの日本研修を実施する
- ・インストラクターの技術、知識、指導能力、カリキュラム作成能力に関する評価を実施する
- ・評価・育成システムを職業訓練校標準の人事評価・育成システムとする

## PHASE2の開始



第1回目のプロジェクトをインドネシア国内に展開する為の第2回目のプロジェクトが開始されました。2019年10月にはインストラクター養成コースの開講式が行われました。

開講式には南スラウェシ州バンタエン州知事や労働省バンバン局長も出席して頂きました。

愛媛トヨタ二神常務取締役は式典中に「インドネシアの為に私たちが出来ることを全力で行っていく。」と出席者へ宣言しました。

インドネシアの自動車社会の発展の為に、インドネシア全土の職業訓練校から候補生48人がBLKバンタエンに集まり、その後1年間の試験で16人に絞り込み、卒業を目指します。



## 日本人スタッフの派遣

今回のプロジェクトは3年間の研修期間中に10回に分けて日本人スタッフを派遣する予定となっており、グループ会社である愛媛トヨタ、愛媛トヨペット、高知トヨタ、高知トヨペット、カローラ高知、ネットス南国の中から3名ずつ選抜して1カ月間の現地指導を行います。合計30名のエンジニアを派遣し、現地での指導を通して自身の成長につなげていきます。

10回のうち2回目までは順調に進みましたが、残念ながら新型コロナウイルス(COVID-19)の世界感染拡大を受け、このプロジェクトも一時中断を余儀なくされています。1日でも早くプロジェクトが再開できるように準備を進めています。



# 中古緊急車両の寄贈事業

## ～絆～

私たちは、「社員の幸せ」「お客様の幸せ」「社会貢献」という企業理念のもと、ゆるぎない愛媛トヨタブランドを構築しようとしています。

その想いのもと活動を続けて10年が過ぎた今、愛媛トヨタとインドネシアの絆は様々な地域や政府をつなぐ架け橋へと成長していきました。日本からインドネシア、インドネシアから日本へ渡航する度にひとつひとつ、大切な絆が増えていきました。

## From Indonesia to Japan

### 愛媛トヨタでの寄贈式の様子



### インドネシア訪問団による 愛媛県知事表敬訪問



### インドネシア訪問団による 松山市副市長表敬訪問



### インドネシア訪問団による 愛媛大学表敬訪問



### インドネシア訪問団による 道の駅視察



### インドネシア訪問団による 水産加工工場視察



### インドネシア訪問団による ごみ処理施設視察

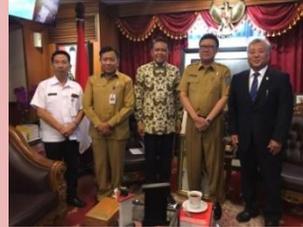


## From Japan to Indonesia

### インドネシアでの寄贈式の様子



### インドネシア内務省 大臣(当時)を表敬訪問



### インドネシア副大統領 (当時)を表敬訪問



### インドネシア労働省 労働大臣を表敬訪問



### 在日インドネシア大使館 全権大使を表敬訪問



### インドネシア労働省 局長を表敬訪問



### カラトヨタ 役員を表敬訪問



## 私たちの社会貢献。

私たち愛媛トヨタは、このたび経済産業省主催の「平成26年度 おもてなし経営企業選」に選出されました。社会貢献を中心とした私たちの活動が評価されたもので、ひとえに地域の皆さまからのご支援のおかげであり、心よりお礼申し上げます。良い会社になるには、そこで働く人たちが人間的に成長していかなければなりません。教えられることで知識は増えますが、それは成長とはいえません。成長するために大切なことは、自ら考え、自ら発言し、自ら行動し、自ら反省すること。とりわけ



見返りを求めない社会貢献活動に尽くすことは、さらに大きな成長が促されると私たちは考えています。感動と感謝を尊び、より一層、お客さまや地域の皆さまのお役に立てる会社として成長していくことを、お約束いたします。

愛媛県で初、唯一の受賞となった「おもてなし経営企業選」。

「おもてなし経営企業選」は、社員の意欲と能力を最大限に引き出し、地域・社会との関わりを大切にしながら、お客さまに対して高付加価値・差別化サービスを提供する経営をおこなう企業を表彰するもの。平成24年度より経済産業省主催で始まり、今回の平成26年度は全国から22社、累計で100社が選出されました。私たちは、これからも出前授業やインターンシップ受け入れ、海外への物資や車両の提供、被災地への支援や店舗開道地域での清掃活動など、皆さまに寄り添いながらコツコツと実践させていただけることを、大切にしていきたいと思っております。

これまでもこれからも、ハイブリッドとともに。

薫風のごとく駆けるは えひめ道

交通ルールとマナーを守って、笑顔いっぱいの爽やかな運転を。《私たちは、愛顔つなぐえひめ国体を応援しています。》2017 愛顔つなぐえひめ国体

愛媛トヨタ

○本店 089-941-5171 ○松山・久米窪田店 089-960-1300 ○空津浦店 089-973-5161 ○三喜・河辺江店 0896-24-1190 ○西条・新喜浜店 0897-53-6000 ○今治店 0898-34-1151 ○大洲店 0893-25-0624 ○宇和島店 0895-27-0111 ○T-UP松山店 089-932-3737